

どうか御考慮を願ひたい、夫は私の友人が農具の製作をして居りますが、鐵が一圓になり一圓五十錢になつて、普通の價で賣ることが出来ないといふので非常に頭を痛めて居ました、私は本所に居つて古鐵屋のやることを見て居ましたので昨年古鐵の廢物に均しい物を一萬貫程買ひましてそれを整理しましたが其の製品は全く新しい物であります、そして一貫目四十錢替で引き受けて鐵を拵へてやることにして既に今日まで約四千貫の物を拵へてやりました、極めて悪い鐵を集めて立派な物が出来て居ります、さうして其先から出る小さな層は私の所で使う「マレーブル」の原料になります、古鐵の整理は非常に宜い、建築材料に使う工形杯は非常に宜い、又古「レール」杯は手斧、ツルハンに拵へます、工形で七分丸、八分丸、九分丸、等拵へます、アー云ふ物は五十錢か六十錢で出来ます、又は工形で自轉車の「クランク」が出来ます、今日のように鐵が高くなつて來ては日本にある廢物たる古鐵の整理をすると云ふことは寧ろ當面の大問題だらうと思ひます、職工の考へは職工だけに極めて卑近なる、又消極的でありますが御參考の一助ともならば幸甚の至りであります。(拍手)

鐵鋼の獨立自給策に對する討議

三 木 正 夫

無理やりに引張り出されましたから仕方ありません、私は神戸に居ります鍛冶屋の職工の親方の一人であります、今迄お歴々のお話になりましたことは最も有難く拜聴いたしました殊に野呂博士の根本的鐵の自給策に付てのお話は頗る有難く拜聴しました、所で其終りに先刻もお話があつたやうであります、製鐵事業の發展と云ふものはどうしても相當の保護がなければならぬ、各國共例がある、其保護の一部分としてどうしても關稅を増さなければならぬと云ふお話であります、此の關稅の問題に付きましては先年來造船協會の船價調査問題に付て、到底船を造る者は、船のみならず總ての補助機關、一般に鐵を以て造るものは外國との競争をする點に於て材料の最も安い物を用ひなければならぬと云ふことに歸着しまして結局は關稅の輕減を願はなければならぬ、私は輕減でない、全廢を願うと云ふ一人

でありました、關稅を増して材料が高くなれば従つて製品が高くなる、其高い製品を以て外國品と競争することは到底不可能である、而もそれが内地だけに限られるならば兎も角も殊に船舶の如きものは世界共通のものである、外國の船が日本に来て商賣する、日本の船が外國に行つて商賣をする、造船の價格が一割も二割も高くなると云ふことになると船主も高い船を以て同じフリートを以て競争することは不可能だ故に斯様なものは關稅を下げて安い材料を以て船を造るに外ならぬと云ふことを私共は頻に主張しました、それから其砌に今から二年前に前製鐵所長官閣下を態々神戸にお引止め申しまして製鐵に關する御方針をお尋ねしたことがあります、其時に年々幾分かづゝ擴張して居ると云ふお話でありましたけれども先刻今岡博士のお話になつた如く製鐵所の産額と云ふものは全部日本の内地の需要に對して僅に二割位にしか相當して居らぬ、其二割の製鐵を保護する爲に關稅を上ぼすと云ふことは却つて一般の鐵の需要者に對して非常な苦痛を與へる次第であつて頗る當を得ない話でないかと云ふことをお話した、其時分製鐵所長官は此頃では大分製鐵も儲かる様になつたから段々擴張すると云ふお話であつたけれども製鐵所の擴張の程度と需要の程度と云ふものは製鐵所が幾ら擴張されても何年先へ行つても需要の方が度が延びて行くので今日でも製鐵所の擴張で我々は甘んずることは出來ぬのだらうと思ふ、日本の國民は到底製鐵所だけを當てにすることは出來ぬだらう、そればかりでなしに平時に於て製鐵所は我々當てにしない、製鐵所と云ふものは名ばかりであつて我々は殆どお蔭を蒙りつて居らぬことが多い、それは何を以て言ふかと言へば軍器の獨立、軍艦を造るとか陸軍の兵器を造るとか、其次には鐵道の何をするとか云ふて民間の需要者に對して效用を爲して居らぬ、海軍の擴張が經費の御都合があつて止めになつた、材料が餘つたからお前達買はないかと言って御厚意を以てやつて下さることがあるか、それは四時はない其製鐵所は政府の軍艦なり總て軍器の獨立と云ふやうなことに付て必要上お造りになる材料を保護する爲に三十九年以前には一噸に付て約五圓の關稅を取つたものが三十九年の關稅改正で内地製品保護の爲に五圓の税金が十圓に騰貴した、如何にも不條理なことではないかと我々は大に奮慨した、此點に於て野呂博士の關稅保護説には御同意致し兼ます、而も又今日に至つて斯う云ふ世界の大戦亂に遭遇して鐵の需要は益々殖えて行き内地の工業は益々盛になつて行

く然るに其原料となる鐵が今や外國から輸入が不可能になる、或る造船者の如きは「キール」を備へて居つても先刻どなたかお話のあつた通り皮斗りあつて骨がない、片輪になつて居る之を完全にするには皆夫々當局者は苦心して居る、製鐵所に只今は嘆願しなければならぬ、果して此の製鐵所が嘆願を容れて下さるかどうか知らぬが、國家としては是はどうも此際應急の處置を取て下さることが頗る至當の事と思ふ、斯の如く製鐵所が必要であるに拘らず如何に今日の製鐵所の設備なるものは需要高と供給高とは非常な差を來して居て日本は安心して自分の國の「スチール」を以て仕事をする事が出来るだらうか、我々は實に鐵の飢饉に遭遇して居る、先きに今岡博士は一年の後に鐵の飢饉に遭遇すると云ふお話であつたが既に現在に於て鐵の飢饉である、我々の状態を見ると鐵なくして一日も我々は仕事は出来ぬ、船を造り機械を造り其の他總ての製造用の諸機械、製紙機械とか紡績機械、化學用の諸機械は鐵なくして到底出来るものでない、鐵の需要は益々多くなつて文明の程度が進めば進む程鐵が必要である、到底鐵なくして一日も經過することは出来ぬ、我々は米に次いで鐵であるだらうと思ふ、さうして見ると我々は米がなかつたら、直ぐに死んで仕舞うが鐵がなかつたなれば事實の上に於て商工業總てのものが死んで仕舞うと言つても宜からう、されば今日日本が米の飢饉に遭遇した時には外國から安い米を買つて補うと云ふことは至當の話、それであるのに我々は鐵の飢饉に遭遇して非常に困つて居るのに外國から輸入する鐵に向つて重税を課して高く賣ると云ふことは少し理窟に合はぬやうに考へます、どうか是は先刻の野呂博士のお話のやうに根本的の國家事業として鐵の産額を増し今の製鐵所が目下諸所に小さい民間製鐵所が出来るが、是は一時的のものであつて決して永久的のものでない必ず鐵鑛をいづれかの所から取つて「スチール」を拵へると云ふことは順當のやり方であると云ふお話であります、固より其通りであります、而て如何にしたら鐵を日本に安く供給し得ることが出来るか、固より此の事業なるものは銀行のやうに資本を下ろして翌日から利子が附くと云ふことは出来ませぬ五年十年の經驗を待たなければ出来ぬことは分つて居ることでありませぬ、して見れば此の製鐵所は損の行く苦い經驗を得て發展しなければならぬから之には相當の保護をしなければならぬのは固より至當の話、是は關税を増さずさうして政府が或る他の方法を以て財源を求め噸に付て幾らかと云ふ獎勵

金を下附せられんことを我々は希望するのであります、先刻鹽田君の電報の如く此際の急務は製鐵所の大擴張をして我々國民の需要を滿されんことを希望すると云ふことでありますでしたが十分私は賛成します、それからまた今の製鐵所が假令は是から五年繼續の事業を三千六百萬圓増して今の殆ど倍額に擴張しやうと云ふ話も聞いたのであります、今の倍額にした所がまだ足りない、宜しく進んで民間にも相當の製鐵業を起させて之を獎勵するが爲に一噸幾らと云ふ獎勵金を政府が出しさへすれば其道に志す人は既に今岡博士のお話になつた如く十數箇所の製鐵所が起り掛つて居る、斯う云ふ機運になつて一般の必要を感じて居る折柄政府は宜く此點に付て熟考されて其事業を發達なさしめられんことを希望します、それで今の民間に起りつゝある製鐵所と云ふものは聞きます所に依りますれば或は三吋以下の丸角「ロール」をやるとか又溝鐵をやるとかさう云ふ部分的になつて居るのは誠に宜いことと思ふ、一時に大きな資本を以てやることは行はれないことで、斯う云ふ小資本を以て各方面に向つて、製鐵の色々の種類を分けて部分的の仕事をすると云ふことは最も急務であつて製鐵所が一箇年三十萬噸の産額があつた所が「レール」もあり厚鐵板もある、「アングル」も薄板もあると云ふやうに其部分を分けると頗る小額で何れの方面に向つてもそれを以て補ふことは出来ぬ、丁度民間にさう云ふ事業が起り掛けて居れば各方面に必要な物を造るやうにして或人は「アングル」斗りを造る、或所では厚板を造る、武力板を造ると云ふ如くにすれば最初は微々たるものであらうがさう云ふ物が發達すれば一般に行渡つて益々此の事業が發達するやうになると思ひます、それで先刻野呂博士のお話のやうに鐵の製造を利益あらしめるのには鑛石から採てやるに限ると云ふお話は尤もなお話であらう、然るに此の小資本の會社にお前の所で熔鑛爐を持つてと言っても小資本の會社では出来ぬ、私の考では政府の製鐵所ならば熔鑛爐を以て大きな仕掛をして各種の鋼塊又ピレット等も色々の物に適當する様に拵へてお前の所で薄板を造るならば是より分けてやるお前の所で丸棒を要すると云ふならば分配してやらう、製鐵所は斯くの如くして大きな仕掛を以て、民間に分配したならば益々小資本の會社が發達することになるだらうと思ふ、製鐵所に對する私の考は只それだけであり、それから先刻高崎貴族院議員のお話を承りましたが、其中に製鐵所と室蘭の日本製鋼所とを合併して民間の資本を一億圓入れると云ふお

話でありましたが是は結構な御話のやうであります、私は室蘭の製鋼所は兵器の製造所で、製鐵所であるまい、それが合體するのは少しく意味が解し憎い、私は製鐵所を手本にして別に一億圓の民間の會社を拵へるか、又は一億圓の資本を製鐵所に合體して官民合體してやるならば面白いことが出来ると思ひますが、兵器製造は自ら其種類を別にして居る、今日の問題とは少しく趣が異なつて居ると思ひますから一寸一言申して置きます、甚だ失禮なことを申しました。(拍手)

鐵鋼の獨立自給策に對する討議(電氣機械用薄鐵板に就て)

工學士 岸 敬 二 郎

私は芝浦製作所に二十餘年從事して居ります、御承知の如く芝浦製作所は電氣の機械許りを拵へて居る工場であります、其の芝浦製作所の立場から此處で少しく御話をしたいと思ひます、電氣の機械には御承知の通り鐵の「ボルト」もあれば鐵の「シャフト」もあります、電氣機械に限つて使用され而かも機械の要部を占めて居る鐵材料があります、即ち薄鐵板であります。

先日東京帝國大學の俵教授に御目に懸つた時に關東か關西か知りませぬが薄鐵板の工場を誰れかが御計畫になつて居ると云ふことを承りました今此の申上げんとすることは或は蛇足かは知りませぬが多少の御參考になるかと思つて芝浦製作所で使用して居る薄鐵板の性質に就いて先づ御話を致します。

芝浦製作所で使つて居る薄鐵板を大別すれば二あります、コンモンステイル及びシリコンステイルの二つであります、而して厚さは.012"、.014"、.025"、.034"、及び1"、16の五種であります尙其性質を示せば左の通りであります。

○薄鐵板の性質

種類 重量 鐵損 失重 比重